

# 妙安寺に隠された日韓交流史 をひもとく

-失われた朝鮮の王孫を求めて-



日 時 2009. 9. 19 (土) 16時30分～18時

場 所 福岡県立大学 3号館 3104 教室

主 催 西岡研究室 福岡県立大学と共に歩む会

講 演 標記演題 (参加費無料)

演 者 前福岡韓国教育院 院長 金 光燮 (キム ガンゾプ) 氏

懇親会 懇親会 18時から 「吉 兆」 番田町 7-3 0947-44-6894

(会費 5,000円 15日までに申し込み要す)

長興の旅で大変お世話になった金先生の講演です。国際交流の出発点としての文化・歴史の相互理解のために開催します。ふるってご参加ください。

問い合わせ 植木 0947-45-0594 [k.uekil@crocus.ocn.ne.jp](mailto:k.uekil@crocus.ocn.ne.jp)

壬辰倭乱（日本で言うところの「文禄・慶長の役」～入明を狙った豊臣軍による一連の朝鮮侵攻）中の1593年、朝鮮北部の咸鏡道<sup>ハムギョン</sup>へ避難する途中、会寧<sup>フエリョン</sup>で朝鮮王朝の王族が日本の加藤清正勢に捕えられ人質となり連れ去れる出来事が発生した。その後、明と日本軍の間に講和が成立、臨海君<sup>イムヘ</sup>は解放されるが、その長女(6才)と長男(4才)は引き続き人質として捕らえられたまま、連れ去られたのであった。

長男の日延<sup>イルヨン</sup>は13才(1601年)で法性寺において出家、16才から3年間京の本国寺で仏法を学び、修行を重ね、ついに現在の千葉県にある誕生寺で第18代『法主』となった。その後、現在の福岡県にある妙安寺に彼の像が残っている。



この事はドキュメンタリー専門監督として有名なチョン・スウン氏が1年あまりの時間を費やし取材したこともある。

番組は冒頭、福岡の妙安寺から始まる。遠く玄海灘を見つめるような悲しい表情をした木像が一体あるのだが、その主人公がまさに日本に連れられてきた宣祖の孫だという。これが妙安寺縁起に記された内容だ。彼の2歳上になる姉はどうなったのであろうか？ 各種の記録によれば、とある武士の妾となったということだけが確認できる。彼女の墓碑は対馬西部に位置したとある漁村の裏山で発見された。

チョン監督は「父君である臨海君が光海君<sup>クワンヘ</sup>に追われ、彼らは故国に帰ることはできない運命だった」とし、「彼らの木像と墓碑は今でも故郷に帰る日を一日千秋の思いで待つかのようだった」と語ったとのことだ。